

議会を傍聴している方々のお声を伺いました

—みなさんはどんな風に思いますか—

お母さんの憩いの場にしてはどうか

私自身は、今川中をアーツ千代田のようにリノベーションしてほしいと考えます。

大きな校庭もあるため…そこを子供のびのびと運動ができるような競技場にしてほしいです!

また、教室は習い事ルーム、憩いの場ルーム、栄養士相談ルームなどお母さんたちの憩いの場となるのではないのでしょうか?

今中の屋上は菜園を作って…千代田区で取れた有機野菜を販売したり、都会でもこんな生き物がいますよ~という場所があると嬉しいです。

その菜園で採れた野菜を使って、カフェも良さそうですね!岩本町には高齢者の方が多いのですが、1人暮らしが非常に多く、家族が少ないとご飯を作ることもなくなり、スーパーのお惣菜が多くなるそうです。面倒な時はパンだけ、カップラーメンだけの日も多いとか。手作りのお店を作ったら行くから作って欲しいと言われました。時々多く作ったら、周りの方におかずを持って行っています。子供食堂だけでなく、高齢者食堂も必要では?と思いました!

岩本町地区

ある日の傍聴席は、別室までいっぱい

昨年9月に番町の方々がまちづくりのことで陳述をする区議会を傍聴しました。子連れの若いママさんを含め、傍聴席は別室までいっぱいでした。区議会で陳述する方達の熱意溢れる発言にも勇気をもらいました。

神保町地区

議会は追認機関ではないはず

本来、議会は行政をチェックする機関のはずが議員は行政の計画を追認するだけの機関になっています。議員も公僕、行政も区民の為にあるはずが、どちらの方向を見ているのか。小枝さんはひたすら住民の立場にたって発言してくれています。

魏町地区 女性

番町地区

東郷公園に思う

その昔、番町では個々の家の庭の植栽が町の緑を提供していましたが、現在は殆どがビルに変わっています。土と緑がびっくりするほど少なくなっているの、公園の価値は昔に比べて著しく高くなっています。これは住民がいちいち言葉に出しているわけではありませんが肌感覚で日々感じていることです。

そんな中、九段小学校の復原の関係で、東郷公園の改修工事が始まりました。バサバサと樹木を伐採している様子に驚いた近隣住民から、現在の公園の土や緑の自然をなるべくそのままに、巨大なウッドデッキはやめて欲しい等、千人を超える方々から陳情がありました。

それらの陳情に対し行政がどう応えるのかははっきりしないまま、鉛による土壌汚染の問題が浮上り、都の条例に従って対策をしなければならなくなりました。汚染土壌に植えられている樹木は根こそぎ伐採の運命にあるようです。対策計画の策定のため現在公園は閉鎖された状態が続いています。そのままじくらないでお願いできれば良かったのに…と知っている住民は多いのではないかと思います。

現在の状況の中での願いは、住民のオアシスである土と緑の環境が出来得る限り守られること。それが今回汚染土壌対策により不幸にして毀損されたとしても、将来また自然豊かな環境が再生できる計画にして欲しいということです。

いずれにしてもヒートアイランド化を促進する方向へは行かないこと、新たな環境汚染を招くことのないよう人工的な材料は避け自然素材を使っただきたいということです。特に発注者である行政には薬品で防火処理をしたウッドデッキの大量使用、経年劣化で浸水性が落ちてくる可能性のあるクレイ舗装などには十二分に注意していただきたいと思います。

番町地区 女性

編集後記

戦後の焼け野原から、困難を乗り越え不屈の精神でインスタントラーメンを発明した安藤百福氏モデルの朝ドラ「まんぷく」。生きてさえいれば何とかなる、笑顔を忘れず努力を続けるふくちゃん、どんな状況でも前向きでありたいものだと言われます。昨今も先行き不透明な難しい時代ですが、余計なことを考えず、誠実にポジティブにシンプルに頑張ろうと思います。

平成31年は、5月新元号になる前に統一地方選です。年末よりポスター所狭しと貼られるいつもの風景に包まれます。私はいままでも事前ポスター的なものを貼ったことがありません。小枝流にて、ご了承ください。「ちよだの声ニュース13号」をお届けします。どうぞお読みになって、ご意見ご感想をお寄せください。(小枝)



TEL 03-3291-2290 FAX03-3237-9805 sumikokoeda@gmail.com

ちよだの声ニュース

【ちよだの声区政報告・活動報告】千代田区議会議員 小枝すみ子



13号

- P2 ……ご存知ですか、千代田区の財政状況?
- P3 ……グラフ基金残高の推移、容積率ってなんだ
日テレ沿道まちづくり協議会第7回日程
- P4 ……区民傍聴者の声・編集後記

〒102-8688 千代田区九段南1-2-1 千代田区役所7階 ちよだの声 TEL.03-3264-2111 (代表) FAX.03-3237-9805 sumikokoeda@gmail.com 携帯.090-5506-1516

平成最後の年に思うこと

■同じテーブルで話せる年に

—このままいけば千代田区の貯金がなくなること、ご存じですか?—

目に余る不用意な財政支出が増えています。同時に地域が分かれてもめるようなことも頻発しています。千代田区が失敗する時は、この30年いつもパターンが同じです。

①知らないところで区案を決める→②地元協議会で固める→③決定後区民が知る→④陳情が起きる、地域を二分する→⑤計画修正となる(もしくはそのまま強行する!)これが、千代田区がトラブルを引き起こすときに共通するやり方です。協議会や町会に重い負担を負わせて、区自らが公開で説明することを避け、あとになって矛盾が出て計画変更する、さらなる出費がかさむということになります。先駆けて検討に加わった町会の方々に、御迷惑をおかけすることになります。

番町魏町地区ではまちづくりや公園整備をめぐり、神田地区では街路樹伐採や保育園整備等をめぐり、行政への信頼が揺らいでしまいました。なぜ、住民や千代田区を大切に思う方々と一緒に知恵をつくすというやり方ができないのか不思議でなりません。マンション居住者9割、新住民が過半数を超えた千代田区で、昔の古いやり方にこだわっては、混乱は増すばかり。何より、このようなやり方を続ければ財政破綻で真に必要な防災や福祉教育への対応ができなくなることは必至です。

都心千代田は、世界遺産に値すると評されるほど、まちまるごと文化財の町なのに、守り伝承し、住み商売を続けるまちづくりに専念できないものなのか、行政および議会の役割が問われています。

■次世代が見えてきた

—いま、子育て世代の動きが目覚ましい—

「ひこばえ」という言葉、意味は、切り株や根元から生える若芽とのことで、春を意味する季語だそうです。平成30年は大変な年でしたが、明るいこと良いことも沢山ありました。今までの人生で一番多かったかもしれません。その一つが、次世代の方々の目覚ましい動きが、千代田区でも全国でも、私の目に見えたことでした。

20代から議員を続けてきて、かれこれ30年にもなる私にとって、これは最大の「希望」です。3・11の震災や、原発事故を感受性の高い若い目線で見えてきた彼らは、複雑な時代の新しい視野とスキルを身につけています。こうしたみなさんに学び、刺激と影響を受けています。

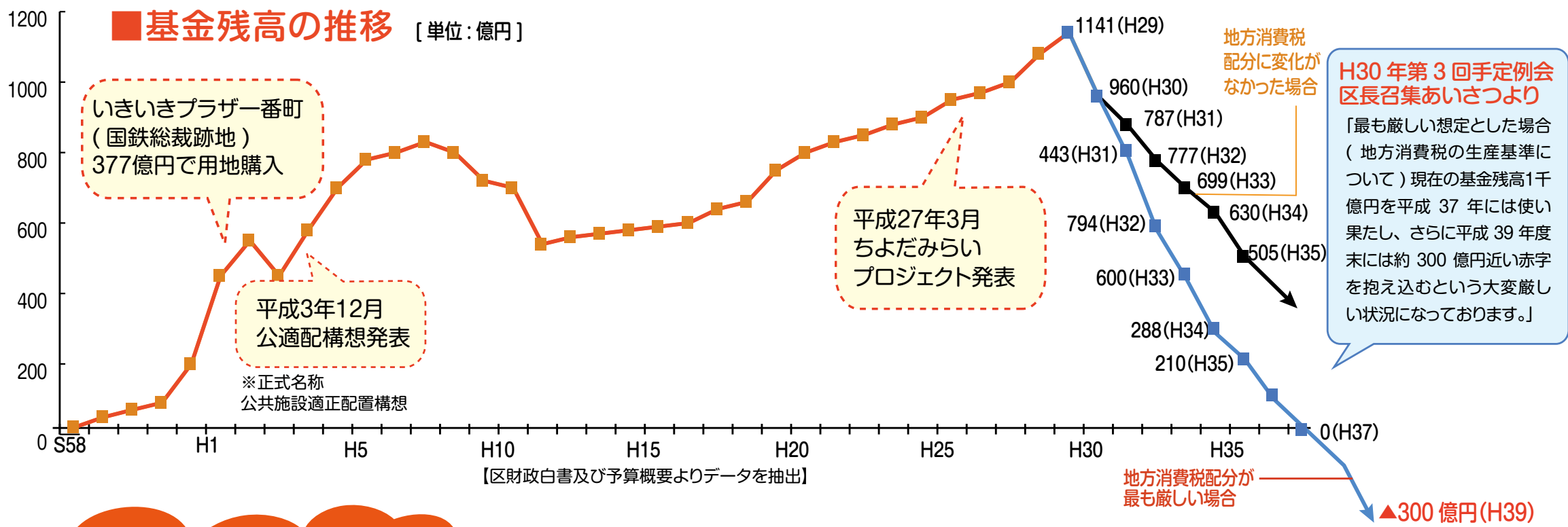
区政報告会

昨年12月14日、建築エコノミスト森山高至さんをゲストに区政報告会をさせていただきました。もっとこのような会をした方が良いとお声をいただき、新年連続で、報告会を行います。お忙しいとは存じますが、どうぞお気軽にご参加下さい。

どうする都心千代田区 —財政、まちづくり—

- 2月2日(土)午後2時~4時
区政報告パート1
- 3月2日(土)午後2時~4時
区政報告パート2
会場:神保町出張所3階

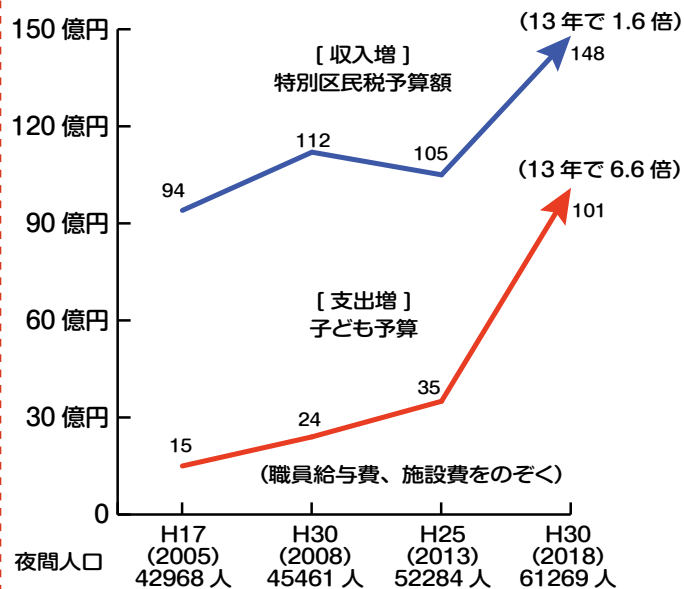




ご存知ですか？千代田区の財政 私たちの福祉・教育財源は大丈夫？

みなさんは、財政のことは議会や行政に任せていると思っていられるかもしれませんが、平成3年910億円の財政支出に歯止めをかけたのは、千代田区始って以来の住民パワーでした。いまでも、住民の声が上がったものの多くは、方向性が変わります。障がい者の親亡き後の入所施設の陳情や神田の篤志家の寄付から始まった箱根千代田荘の売却中止、他にも住民が声を上げて動かした例は数々あり、ちよだの声ニュースでもたびたびお知らせしている通りです。

人口が増えれば倍速で支出が増えます!! 子どもにかかる予算、10年余で85億円増の意味するところ



惰性的に大規模公共事業を進めさせてはなりません。

- 四番町図書館、保育園、住宅建て替え →100億円超+α億円
- 常盤橋修復 →30億円超+α億円
- 代官町通り改修 →12億円超
- 東郷公園改修 →8億円超+α円
- 九段坂公園 →4億円超
- お茶の水橋改修 →30億円超+α億円



これらは一例に過ぎません。税金は無尽蔵ではないという自覚を持って、行政は優先すべきものを厳選すべきです。

オリンピック前の工費が高く人員も手配できないような時に、なぜこんなに一辺に工事をするのだろうかと私には不思議でなりません。

まだ使える築30数年の図書館・区営住宅を壊そうとしたり、地域の子どものための拠り所となっていた季節折々に美しい公園を大改修のために樹木を伐採したり……。議会陳情によって立ち止まっても、さらに問題は深刻化するばかりです。

ちよだの声ニュース12号(前号)でお知らせした「日テレ通り沿道まちづくり」について第7回の協議会が開催されます。

いいききプラザ一番町 B1カスケードホール
2019年(平成31年)1月31日(木)
9時半開場 10時~12時
110名程度

※事前申し込みは不要です。当初は傍聴10人までで、なかなか参加が困難でしたが、住民の意見を丁寧に聞いてくださるようになった結果、このような形で第7回が開催されるようになりました。9月10日の議会での陳述、地域住民と話し合いなどの結果、このように広い会場を確保して開催されることになりました。事業者にとっても住民にとっても理解を深めるより良い一歩となることを祈っています。

行政の追認機関となっている議会もおおいに問題です。

地域や協議会がそれを求めているというのですが、それならば、正々堂々と説明会を行えば良いのに、都合の悪いものほど、根回し型で既成事実をつくり、後戻りができないようにしてしまうのがいまの行政のやり方です。

詰めの甘い公共事業の結果、何度も何度も行き詰まり、支出と契約見直しを繰り返して大いなる無駄遣いになる、その繰り返しに不思議なほど、区長も行政も反省ゼロなのは、「地域が求めている」という隠れ蓑があるからなのです。では地域の皆さんにこのような財政の現状をお話しているのでしょうか。

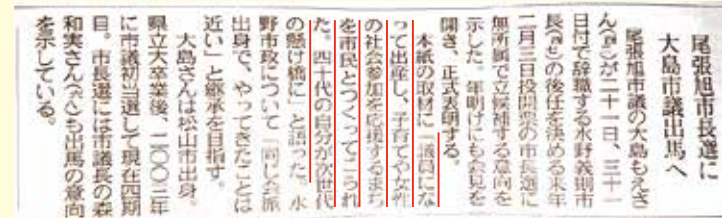
もっとも重要な定住支援のための政策は、後退りしています。一昨年より20年の期間を超えて廃止した「借り上げ型区民住宅」の総予算は年間10棟152戸で総維持費が約2億円でした。まだ市場価格の賃料がこれほどに高値の時になぜ廃止する必要があったのでしょうか。区民は住宅を求めているのに、定住化政策として効果のあった政策をなぜいまやめるのか、まったく理解が出来ません。

平成30年に可決成立の日本版パリテ法=「政治分野における男女共同参画推進法」前に進めたい。平成31年4月統一地方選挙に注目。



信濃毎日新聞平成30年7月8日

子育て議員、尾張旭市長選へ 出産議員ネットワークでご一緒した 中心メンバーの一人がこの度市長選へ



中日新聞平成30年12月22日

容積率ってなんだ?

建築ジャーナル1月号に 小枝すみ子の投稿掲載

都心住民から 欲望の足し算はもはやコントロール不能

1991年、バブルと地上げの沸騰期に千代田区職員から議員になった。当時、都心の人口は極限まで減少し、過小規模化した神田地区の学校はこの年半分以下に統廃合する方針が出され、千代田区始まって以来の住民運動が起きた。あれから7期27年区議会議員を続けてきたが、容積緩和の末のマンション開発により、人口は急増し、保育園あるいは幼稚園に入れられないという、かつてと真逆の状況が発生している。

無秩序な開発によって、コミュニティを形成してきた住民が住み続けるのに困難な現状は加速している。相続税固定資産税対策などで馴染みの店は消え、個性ある界隈は貸しビル業に変貌し1階はチェーン店化する。オンリーワンの店の継承が困難になるが、国も都も区も疑うことなく、容積を緩和し、さらなる超高層型の再開発を誘導している。皇居の正面玄関にあたるいわゆる大丸有エリアでは、1000%の容積が、都市再生の名の下にボーナスと1300%に割り増しされた。気が付けば、ほかの地域でも、駅周辺だとか、優良住宅、緑化、無電柱化、バリアフリーなど、名目がたば容積緩和されて、地下鉄の駅の入出口は転落事故が心配されるほどの混雑になっている。快適、文化的な都市の維持継承を考えるとダウンゾーニングすべきだが、財産権の侵害になるという。容積率は欲望の足し算ばかりのコントロール不能な制度だと私は思う。

そうした中で、赤坂に低層木造建物店舗をリニューアルオープンした「とらや赤坂店」の出現と社長の英断は、私たち都心住民に希望の未来を指し示してくれた。

(千代田区議会議員)